

強い決意
災害の推進

者は次の通

個人賞

(ナカヤ建

紀夫(マル

一)永井芳

◆日向寺政

◆大内達弘

業)◆和田

工業)◆小

設)

建設本部主

◆砂森拓也

栄光(建設

課)◆市村

設本部土木

掘削工事で

明(建設本

、多賀高校

改修工事)

同)

予報士で防

保井朝美氏

役立つ気象

参加者として

にコミュニ

ーションを

った。

その姿、支

動画で業界・仕事の魅力PR

県建コン協

若手技術者5人が語り合う

県建設コンサルタント協会(橋本義隆会長)は「建設コンサルタント業界」についてのPR動画を作成した。担い手不足などの課題を打破するため、若手技術者を集め、「ズバリっ!」な本音を動画にまとめた。



作成したPR動画

協力した入社5年以内の若手社員は、開発計画研究、所、玄設計、コウノ、水工エンジニアリング、ミカミから1人ずつ計5人。

動画は「どんな仕事をしているのか」から始まり、「入社前と後のギャップ」「現在の収入面について」など、なかなか聞くことのできない「ズバリっ!」な貴重な声を紹介。

建設コンサルタントとは「何かを作る前段階のお仕事をやる人」であり、裏方のさらに裏方。「縁の下力持ち」と話す。

働く前と後のギャップでは、体を使った仕事が多いイメージで入社したが、実際は「パソコン業務が多かった」と驚愕。「しばらくは悪戦苦闘していた」と楽しそうに話した。



動画は若手5人が作成した

さらに、職場環境において男女の割合がよく、性別にとらわれずに働ける環境であることを実感し、安堵を覚えたという。

また女性ならではの目線で「服装の自由」との声があった。メイクや髪形などに規定がないと「可愛いネイルをしてモチベーションを上げて業務に取り組みたい」と楽しそうに話している。

仕事の将来性についての問いかけには「今後老朽化していく施設が多いことを踏まえ、点検業務などはむしろ仕事が増えるのでは」と期待。

土木の仕事は、「一人の生かす思いを語った。

茨建協太田支部

除草で地域美化を

未来協とボランティア



支部長

当日はテニスコート隣の駐車場に集合。作業前には梅原支部長は「ここは地域の方々散歩する場所であ

り、また3年後には新体育館が完成し、多くの人が集う場所となる。今年はこの実施したいと思う。その時に皆さんの協力をお願いしたい」とあいさつ。比較的涼しい時期ではあるが熱中症に留意し、水分補給を欠かさぬよう呼び掛けた。

宇野光雄副支部長から注意事項の説明を受けた後、一斉に作業に入った。

支部員は源氏川沿いに整備された花壇周辺の幅2m、体育館入り口までの200m強、さらには山吹橋から八百屋橋まで540m

区間を対象に除草。それぞれ5m以上の間隔を確保するとともに飛び石が通行車に当たらぬよう注意しながら作業に従事した。

除草ボランティア活動は2008年から実施しており25回目。



協会の協賛による動画は協会のホームページで視聴できる